# 平成30年度

# 全国学力・学習状況調査について

#### 身延町教育委員会

文部科学省では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、調査の結果からみえてくる教育施策の成果と課題を検証しその改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、毎年4月に小学6年生、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しております。今年度は3年に1度実施の理科も行いました。

今年は4月17日に実施し、身延町では小学6年生69人、中学3年生63人が参加しました。身延町の子どもたちの現状と課題を踏まえて、児童生徒の学力向上を図っていきます。

なお、この調査結果については、国語、算数・数学と特定な教科のみ実施されたもので、全ての学力 を測るものではないことをご理解ください。

## 児童生徒に対する調査

#### ◎教科に関する調査

小学校··· 国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科中学校··· 国語 A、国語 B、数学 A、数学 B、理科

※ A 問題は主として「知識」に関する問題(身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など)、B 問題は主として「活用」に関する問題(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わること)が出題されております。

小学生 (69人)		全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	A問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
算数	A 問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
理科		ほぼ同じ	ほぼ同じ

中学生(63人)		全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	A問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
数学	A 問題	やや下回る	やや下回る
	B問題	ほぼ同じ	やや下回る
理科		ほぼ同じ	る回イかか

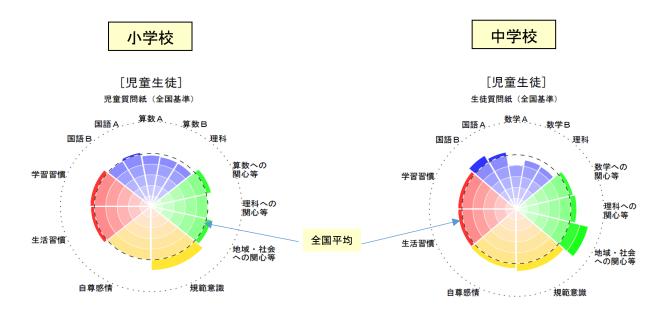
※ほぼ同じ… ± 5ポイント未満の違い※やや上(下)回る… 5ポイント以上の違い※上(下)回る… 10 ポイント以上の違い

身延町の調査の結果は、概ね全国平均正答率と「ほぼ同じ」ですが、中学校数学Aでは全国及び県平均をやや下回り、中学校数学Bと理科では県平均をやや下回っています。

### ◎質問紙調査

「将来の夢や目標をもっていますか?」「学校のきまりを守っていますか?」「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか?」「週末は何をして過ごすことが多いですか?」など59~62項目の設問に児童生徒が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して児童生徒の様子や意識を測るものです。

回答を総合的にまとめたものが下記の表のとおりです。校則やルールを守るなどの「規範意識」、地域の行事やボランティア活動への参加、社会で起こっている出来事への関心といった「地域・社会への関心等」などが、全国平均を上回っています。



## 学校に対する調査

#### ◎質問紙調査

学校における指導方法に関する取り組みや、学校における教育条件の整備の状況等に関して、81 ~84項目の設問に学校が回答するものです。

調査結果からみえる特徴は、保護者や地域の方との学校の美化や登下校の見守りなど、協働による 取組等で地域と交流を深めています。またコンピュータ等のICTを活用する学習活動を取り入れ、 学校の教育水準の向上に努める活動を取り入れています。授業の様子は、学級全体で取り組んだり、 挑戦したりする課題やテーマを与え、課題解決に向けて、自分で考え取り組み、児童生徒の意欲や好 奇心が喚起されるような授業展開をしています。

また、「私語をしない」、「授業開始のチャイムを守る」などの学習規律が徹底されており、生活面では落ち着いた様子がうかがえます。

### 総括

児童生徒の質問紙のうち、「地域の行事に参加している」、「地域社会のボランティア活動に参加したことがある」や「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」など地域学習に関する事柄は全国平均を大きく上回っており、地域学習、道徳教育の徹底が図られています。また昨年と同じく全国平均をやや下回った「数学A」については、基礎学力の定着に向けた取り組みが必要です。

学校活動だけでなく、より一層の家庭学習の定着、向学館事業等における学習サポート、町における教育環境の整備等、引き続き学校、家庭、地域、町が連携して、確かな学力と豊かな人間性を育んでいきます。